れ、黒蠅以外の蠅の活動は長崎地方では12月上旬を以て終ると考えられる。〔長崎大風土研衛生動物〕

下関市(小月町)及び小野田市に於ける蚊成虫の調査 岡 官 佳

Oka, H.: Mosquitoes of Yamaguchi Prefecture. The results of the survey in Ozuki and Onoda

緒言: 1952年に引きつづいて1953年5月1日~10月31日まで実施した。下関市・小野田市共に10名以上の協力下に毎夜9~10時家内に侵入した蚊を吸虫管で採集した。成績: 下関市で16,756匹, 小野田市15,502匹を採集した。両地の共通種は15種でその外下関では *Anopheles koreicus*, *Anoph. sinensis* 小野田では *Anopheles japonicus* を得た。饒多種は下関で *Cul. pipiens* (34.6%), *Cul. tritaenior.* (30.86%), *Anoph. sinensis* (15.61%), *Armig. obturb.* (9.35%), *Cul. bitaenior.* (5.25%) 小野田で *Cul. pipiens* (53.3%), *Cul. tritaenior.* (30.33%), *Anoph. sinensis* (7.81%), *Armig. obturb.* (3.80%), *Aedes vexans* (1.62%) で其他はいずれも僅少である。*C. pipiens* は両地共5月末と6月初め山をつくり下関では最高の山は6月末小野田では7月中頃最高の山をつくる。*C. tritaenior.* は下関市では5月初山をつくり6月の終りと7月の初め高い山をつくり、小野田市では7月末最高の山をつくり8月初第2の山をつくる。そして9月初と中旬2コの低い山をつくる。*Anoph. sinensis* は下関では5月6月の中旬に夫々小山をつくり7月末と8月初最高の山をつくり9月の初小山をつくつて終る。小野田市では5月初小山をつくり7月の初と終りに大なる山をつくつて終る。降水量との関係は *C. pipiens* は降水量に比例して6月7月に多く、*C. tritaenior.* と *Anoph. sin.* は雨の後或は乾季に多い。日本脳炎は小野田市に於て8月28日初発9月初旬より中旬にかけて計4名発生した。下関市(小月町)には日本脳炎患者なし、考按: 岡山県の蚊と種類及び時を等しくしている。*C. tritaenior.* と日本脳炎との関係は患者発生数も少いが、大体岡山県より名古屋附近のそれに近い。矢張り最高の山より2週間後に発生し興味深い。結論: 1953年5月1日~10月31日まで下関市(小月町)と小野田市にて蚊成虫17種を得た。饒多種は *C. pipiens*, *C. tritaenior.* そして *Anoph. sinensis* では時期的消長は岡山県、名古屋附近に似ていて日本脳炎と *C. tritaenior.* とは一定の関係があ

るように思われる。

〔山口医大臨床病理〕

昭和26年度宇都宮における蚊の季節的消長

倉茂 好雄

Kurashige, Y.: Seasonal prevalence of mosquitoes in Utsunomiya during 1951

昭和26年6月21日から11月22日まで宇都宮市若草町(旧栃木県国本村)の山羊舎において毎週1回、日没前後1時間、吸虫管により蚊を採集した。採集総数は雌2,133匹, 雄5匹, 計2,138匹であつて、*Culex tritaeniorhynchus* 最も多く29.42%で、*Anopheles hyrcanus sinensis* 22.87%, *Armigeres subalbatus* 20.86%, *C. pipiens pallens* 12.54%, *Aedes vexans nipponii* 11.04%, *C. bitaeniorhynchus* 1.03%これにつぎ、他に少数の *Ae. albopictus*, *Ae. japonicus* が見られた。季節的消長を蚊の個体についてみると、7月中旬から急に出現が増加して8月上旬最高に達し、以後多少の起伏はあるが10月上旬までゆるやかに減少してゆく大きな山を形成するのであつて、蚊が全く姿を消すのは10月下旬であつた。次に各種の蚊についてみると、*C. tritaeniorhynchus* はこれと類似した消長を示し、7月上旬から急に増加して7月下旬から8月上旬にかけて最高に達し、以後漸減して9月末にはもはや見られなくなつた。*A. hyr. sinensis* の消長は *C. tritaeniorhynchus* と同様7月下旬から8月上旬にかけて最高の山を示し、8月中旬急に減少するが8月下旬から9月上旬にかけて再び小さな山を示していた。同様なことは当地の *A. hyr. sinensis* の幼虫についても既に観察したことである。*C. pip. pallens* は *C. tritaeniorhynchus* に比べ採集数ははるかに少ないのであるが、前記2種よりも少し早く7月下旬に山を示し、以後漸減し9月下旬には見られなくなつた。*Ae. vexans nipponii* は最も早く出現し既に6月に最高に達しており、以後あまり採集されないが10月上旬まで見られた。*C. bitaeniorhynchus* は僅かしか採集されなかつたが、その出現も遅くて7月下旬に現われて8月中旬最高に達し10月上旬に見られなくなつた。*Ar. subalbatus* は上記諸種の蚊と季節的消長の趣を異にしているのであつて、7月中旬一時多くなるが8月上旬急減し最盛の山は最も遅く、8月下旬から9月上旬にかけて示されており、以後急減して10月下旬までみられた。

〔宇都宮大生物〕